

## 【コース ID : 44】 線形代数 I

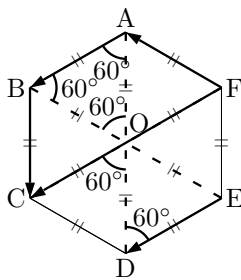
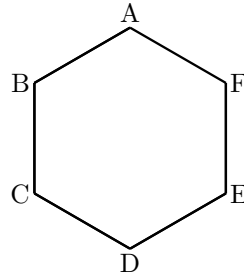
## 44.1 平面ベクトル (ベクトルとスカラー・和と差)

## 44.1.1 ベクトルとスカラー

## 問題 001 (バリエーション No.1)

正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$  とするとき、次のうち、 $\vec{a}$  と等しいベクトルは  である。

- ①  $\overrightarrow{FA}$
- ②  $\overrightarrow{BC}$
- ③  $\overrightarrow{ED}$
- ④  $\overrightarrow{FC}$
- ⑤  $\overrightarrow{CB}$



正六角形なので、対角線の交点を O とすると、左図のようになる。

ここで、 $\angle AOB$  は、 $360^\circ$  の 6 等分なので、 $60^\circ$  かつ  $\triangle OAB$  は、 $OA = OB$  の二等辺三角形なので、 $\triangle OAB$  は、正三角形となる。同様に、 $\triangle OBC$ ,  $\triangle OCD$ ,  $\triangle ODE$ ,  $\triangle OEF$ ,  $\triangle OFA$  も正三角形となる。

すなわち、 $\angle BAO = \angle COD = \angle EDO (= 60^\circ)$  なので、 $AB \parallel FC \parallel ED$ 。

よって、選択肢のうち  $\overrightarrow{AB}$  と平行で向きが等しいベクトルは、 $\overrightarrow{ED}$  と  $\overrightarrow{FC}$  である。そのうち、大きさも等しいものは  $\overrightarrow{ED}$  のみである。

【答】 ②

## 問題 002 (バリエーション No.1)

$\triangle ABC$  の辺 BC, CA, AB の中点を、それぞれ P, Q, R とする。

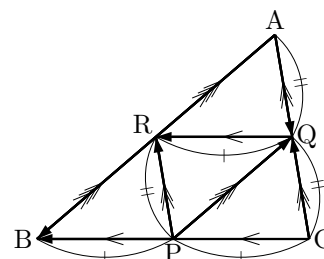
次のうち、誤っているものは  である。

- ①  $\overrightarrow{QR} = \overrightarrow{PB}$  である。
- ②  $\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{AB}$  である。
- ③  $\overrightarrow{AQ} = -\overrightarrow{CQ}$  である。
- ④  $\overrightarrow{PR}$  は  $\overrightarrow{AQ}$  の逆ベクトルである。

$\triangle ABC$  は、右図のように表せるので、

①  $QR \parallel CB$  で方向が等しくかつ向きが等しい。さらに大きさが  $QR = PB$  と等しいので、正しい。

②  $PQ \parallel BA$  であるが向きが逆で 大きさも  $AB = 2PQ$  であ



るから、誤り.

② AQ と CQ は同一直線状にあるので、方向が等しく、向きが逆である. これを マイナスで反転させると、向きが等しくなる. かつ 大きさに関して  $AQ = CQ$  であるから、正しい.

③  $PR \parallel AC$  で方向が等しく、向きが逆. 大きさに関して  $PR = AQ$  である. 逆ベクトルとは、向きが逆で大きさの等しいベクトルなので、正しい.

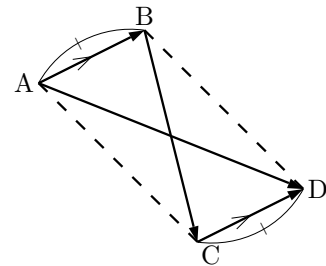
【答】 ①

#### 問題 003 (バリエーション No.1)

平面上に、一直線上にない4つの異なる点 A, B, C, D があり、 $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$  を満たしている. 次のうち、正しいものは ア である.

- ① 四角形 ABDC は長方形である.
- ②  $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{BD}$  である.
- ③ 2つのベクトル  $\overrightarrow{AD}$  と  $\overrightarrow{BC}$  は等しい.
- ④  $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{AC}$  であるなら、四角形 ACDB はひし形である.

$\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{CD}$  は、右図のように表せるので、



①  $AB \parallel CD$  で、かつ大きさが  $AB = CD$  である. 四角形 ABDC は、対辺が平行で等しいため、平行四辺形といえる. しかし、4つの角が等しいわけではないので、長方形とはいえない. 誤り.

② 上記①により、四角形 ABDC は、平行四辺形である. 従って、 $AC \parallel BD$  であり、向きが等しく、かつ  $AC = BD$  であるから、正しい.

③ AD と BC は平行四辺形の対角線であり、 $AD \nparallel BC$ . よって、誤り.

④  $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{AC}$  であるなら、始点が A で向き・大きさが等しいため、B 点と C 点は一致する. これは、一直線上にない4つの異なる点 A, B, C, D という前提条件に矛盾する. よって、誤り. (ひし形であるためには、ベクトル表記でなく、大きさのみが等しい  $AB=AC$  であるべきである.)

【答】 ②

問題 004（バリエーション No.1）

次の  にあてはまるものを、後の ①～③ から選び、その番号をマークせよ。

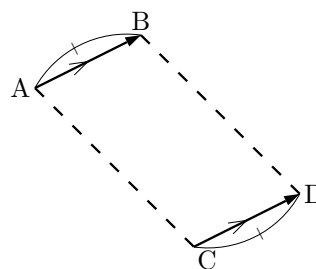
同一平面上の異なる4点 A, B, C, D について、 $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$  であることは、直線 AB と CD が平行であるための  。

- ① 必要十分条件である
- ② 必要条件だが十分条件ではない
- ③ 十分条件だが必要条件ではない
- ④ 必要条件でも十分条件でもない

$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$  を図示すると、右のようになる。

$p : \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$  である

$q : \text{直線 AB と CD が平行である}$



とすると、

$p \Rightarrow q$  は、ベクトルが等しいなら、向きが等しく、互いに平行となる。真である。

$q \Rightarrow p$  は、直線 AB と CD が平行であっても  $AB \neq CD$  であれば、 $\overrightarrow{AB} \neq \overrightarrow{CD}$  であり、偽である。（また、直線 AB と CD が平行かつ  $AB = CD$  であっても、向きが逆であれば同じく  $p$  は成立しない。）

よって、 $p$  は十分条件ではあるが、必要条件ではない。

【答】 ②

44.1.2 ベクトルの和と差の計算

問題 001（バリエーション No.1）

$\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を互いに平行ではないベクトルとすると、次式

$$2(\vec{a} - 3\vec{b}) - 3(\vec{a} - \vec{b})$$

を  $p\vec{a} + q\vec{b}$  の形に簡単にすると、

$p = \text{アイ}$ ,  $q = \text{ウエ}$  である。

$\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は互いに平行でないで、かっこを外して、 $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  それぞれの係数を求める。

$$\begin{aligned} 2(\vec{a} - 3\vec{b}) - 3(\vec{a} - \vec{b}) &= 2\vec{a} - 6\vec{b} - 3\vec{a} + 3\vec{b} \\ &= (2 - 3)\vec{a} + (-6 + 3)\vec{b} \\ &= -\vec{a} - 3\vec{b} \end{aligned}$$

【答】  $p = -1$ ,  $q = -3$

問題 002 (バリエーション No.1)

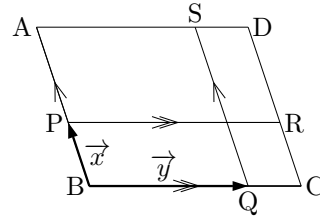
平行四辺形 ABCD において、辺 AB を 3 : 2 に内分する点を P、辺 BC を 3 : 1 に内分する点を Q とする。

辺 CD 上の点 R および辺 DA 上の点 S をそれぞれ  $PR \parallel BC$ ,  $SQ \parallel AB$  となるようにとり、 $\vec{x} = \overrightarrow{BP}$ ,  $\vec{y} = \overrightarrow{BQ}$  とすると、

$$\overrightarrow{SP} = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{x} - \vec{y}$$

$$\overrightarrow{SR} = \frac{\boxed{\text{エオ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{x} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} \vec{y}$$

である。

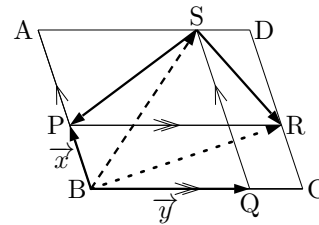


右図より

$$\overrightarrow{SP} = \overrightarrow{BP} - \overrightarrow{BS}$$

となり、 $\overrightarrow{BP} = \vec{x}$  なので、 $\overrightarrow{BS}$  を求めると

$$\begin{aligned} \overrightarrow{BS} &= \overrightarrow{BQ} + \overrightarrow{QS} \\ &= \vec{y} + \overrightarrow{BA} \quad (\because \overrightarrow{QS} = \overrightarrow{BA}) \\ &= \vec{y} + \frac{3+2}{2} \vec{x} \quad (\because PA:BP = 3:2 \text{ より, } BA:BP = 3+2:2) \\ &= \frac{5}{2} \vec{x} + \vec{y} \end{aligned}$$



よって

$$\begin{aligned} \overrightarrow{SP} &= \overrightarrow{BP} - \overrightarrow{BS} \\ &= \vec{x} - \left( \frac{5}{2} \vec{x} + \vec{y} \right) \\ &= \frac{-3}{2} \vec{x} - \vec{y} \end{aligned}$$

同様に

$$\overrightarrow{SR} = \overrightarrow{BR} - \overrightarrow{BS}$$

であり、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{BR} &= \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CR} \\ &= \frac{3+1}{3} \vec{y} + \vec{x} \quad (\because \overrightarrow{CR} = \overrightarrow{BP} = \vec{x} \text{ また, } BQ:QC = 3:1 \text{ より, } BC:BQ = 3+1:3) \\ &= \vec{x} + \frac{4}{3} \vec{y} \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned}\overrightarrow{SR} &= \overrightarrow{BR} - \overrightarrow{BS} \\ &= \left(\vec{x} + \frac{4}{3}\vec{y}\right) - \left(\frac{5}{2}\vec{x} + \vec{y}\right) \\ &= -\frac{3}{2}\vec{x} + \frac{1}{3}\vec{y}\end{aligned}$$

**問題 003 (バリエーション No.1)**

正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{AB} = \vec{x}$ ,  $\overrightarrow{BC} = \vec{y}$  とするとき、

$$\overrightarrow{AF} = p\vec{x} + q\vec{y}$$

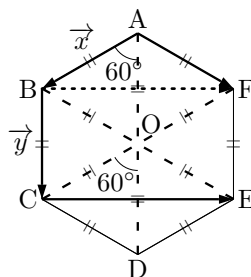
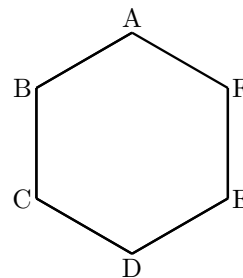
$$\overrightarrow{CE} = r\vec{x} + s\vec{y}$$

とすれば、 $p$ ,  $q$ ,  $r$ ,  $s$  の値はそれぞれ

$$p = \boxed{\text{アイ}}, q = \boxed{\text{ウ}}$$

$$r = \boxed{\text{エオ}}, s = \boxed{\text{カ}}$$

である。



正六角形なので、対角線の交点を O とすると、左図のようになる。

$\triangle OAB$ ,  $\triangle OBC$ ,  $\triangle OCD$ ,  $\triangle ODE$ ,  $\triangle OEF$ ,  $\triangle OFA$  は正三角形である。

すなわち、 $\angle BAO = \angle COD (= 60^\circ)$  なので、 $AB \parallel FC$ 。

よって、 $\overrightarrow{FC} = 2\overrightarrow{AB} = 2\vec{x}$  である。また、 $\overrightarrow{FE} = \overrightarrow{BC} = \vec{y}$  なので、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{CE} &= \overrightarrow{FE} - \overrightarrow{FC} \\ &= \vec{y} - 2\vec{x} \\ &= -2\vec{x} + \vec{y}\end{aligned}$$

また、 $\overrightarrow{BF} = \overrightarrow{CE}$  なので、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AF} &= \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BF} \\ &= \vec{x} + \overrightarrow{CE} \\ &= \vec{x} + (-2\vec{x} + \vec{y}) \\ &= -\vec{x} + \vec{y}\end{aligned}$$

**【答】**  $p = -1$ ,  $q = 1$ ,  $r = -2$ ,  $s = 1$

## 問題 004（バリエーション No.1）

$-2\vec{a} + 2\vec{b} - 4\vec{x} = 3(3\vec{a} + 3\vec{b} + \vec{x})$  のとき、 $\vec{x}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  で表すと

$$\vec{x} = \frac{\boxed{\text{アイウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \vec{a} - \vec{b}$$

となる。

与式の右辺のかっこを外し、 $\vec{x}$  のみを左辺に、その他を右辺に整理すると、

$$-2\vec{a} + 2\vec{b} - 4\vec{x} = 3(3\vec{a} + 3\vec{b} + \vec{x})$$

$$-2\vec{a} + 2\vec{b} - 4\vec{x} = 9\vec{a} + 9\vec{b} + 3\vec{x}$$

$$(-4 - 3)\vec{x} = (9 + 2)\vec{a} + (9 - 2)\vec{b}$$

$$-7\vec{x} = 11\vec{a} + 7\vec{b}$$

$$\vec{x} = \frac{-11}{7}\vec{a} - \vec{b}$$